



世界で一番大変な仕事

前号の続きです。

面接官は、最後の一言を言い放ちました。

「その仕事とは、お母さんです。」

瞬間、参加者の顔に笑みがこぼれました。

「そういうことだったのね。」

「確かに。お母さんは、毎日いつも頑張ってくれていた」

「私が病気の時もつきっきりで看病してくれて…」

自分の母を思い出し、語りながら涙する参加者も出始めました。

「私のお母さんは最高よ。」

「こんなに大変な仕事をいつもやってくれてたのね。」

「しかもずっと。」

「お母さん、ありがとう。」

この企画は、アメリカの「カードストア」という会社が、母の日に合わせて考えた偽の企業面接です。

実際の映像はインターネット上にたくさん出ていますので、興味のある方はぜひ見てみて下さい。

<https://www.youtube.com/watch?v=4oCqduf5GGI>

教室でも、この映像を使いながら授業をすることがあります。

その時は、きまって次のように伝えていきます。

「みんなもぜひ自分のお母さんを思い浮かべてみて下さい」と。

お家でみんなのため、家族のためにと、きっとたくさんのことをしてきているはずですよ。

そして、その働きは、金額に換算されません。
毎日、家族から労いや感謝をもらえることもほとんどありません。
何なら、子どもたちの多くは、それを「当たり前」だとさえ思っています。

元気に体が動くのと、同じように。

毎日お日様が昇るのと、同じように。

もちろん、これを赤ちゃんの頃に理解しなさいとは言いません。

幼稚園の段階でも、イメージすることは難しいでしょう。

でも、小学生になり少しずつ想像力が膨らんでくると、話は変わってきます。

その行いの意味も理由も、考えも思いも、想像すればきっと思い至ることができるようになる日が来ることでしょう。

私は、「大人になる」とは、一つに「恩を知る」ことなのだと思っています。

恩を知り、恩を感じ、恩に報いる。

仏教では、これを「知恩・感恩・報恩」といいます。

恩の存在に気付いた時。

恩の大きさがイメージ出来た時。

人は、「感謝」の思いが生まれます。

いきなり「感謝しなさい」ではないのです。

どんな恩を受けたのかを知り、だれに支えてもらっているのかが分かることで、初めて感謝の思いは浮かんで来るものだということです。

そして、恩を知ろうとも感じようともしない姿を、「恩知らず」といいます。

さらに恩知らずどころか、「恩をあだで返す」人も世の中にはいます。

こんなことを続けていたらどうなるか。

詳しくは書きませんが、それは1年生でもきっとわかるはずです。

悪い原因は、悪い結果しか生みません。

そして、良い原因は、良い結果しか生みません。

「因果応報」という言葉がありますが、この言葉は悪いことを戒めるための言葉というより、むしろ「善因善果」「悪因悪果」といって、起きてきていることには全てふさわしい原因があるという意味から来ています。

名著『原因と結果の法則』にも通ずる考え方です。

尚、「恩」に対する人の行動を段階的に示すと、次のようになります。

恩をあだで返す 恩知らず 恩を知る 恩を感じる 恩を返す 恩を送る

未熟

成熟

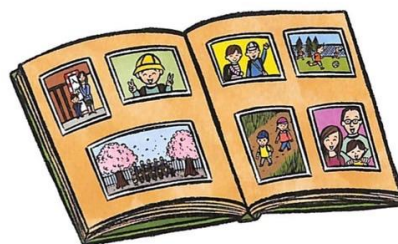
最後の「恩を送る」とは、「誰かから受けた恩を、直接その人に返すのではなく、別の人に送ること」です。

最も心の成熟度の高い人ができる行いです。

最近、自然と人助けをしたり、言われずに陰徳を積んだり、クラス外の人にも優しく思いやり深い行動をしている人を毎日目にするようになりました。その「恩を送る姿」に、みんなの確かな心の成長を感じているところです。

今週は道徳で、以下の教材を学習します。

いいました。
「ぶかぶかだった きいろい ぼうしが、
いまでは、びつたりになったものね。」
おばあちゃんが、ぼくの あたまを
なでながら いいました。
「そうだな。もう すぐ、
二ねんせいだものな。」
おじいちゃんが、にこにこしながら
いいました。
ぼくは、きょう、せんせい が なして
くれた ことを おもいだしました。
「みなさんは、ひとりでおおきく
なったのでは ないのですよ。」



おかあさんが、アルバムを みせて
くれました。
にゆうがくしてからの、ぼくの しゃんが、
たくさん ありました。
「はやいなあ。にゆうがくしてから、
もう 一ねん たつのか。」
と、おとうさんが いいました。
「ランドセルが、びかびか ひかって
いたわね。」
しゃんを みながら、おかあさんが



すでに授業を実施したクラスでは、ここまでを読み聞かせた上で問いました。

「みんなは誰のおかげで大きくなったんでしょう」と。

答えは続々と出てきました。

お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん。

お兄ちゃん、お姉ちゃん、親戚のおじさん、おばさん。

家族以外にも、「近所のおじちゃん」という子がいれば、学校や幼稚園の先生と発表する子もいました。

ペットの名前を口にした子もいたので、理由を聞いてみると

「なんだか、元気をもらったから」との答えが返ってきました。

中には、アインシュタインやスティーブ・ジョブズなどの偉人を上げる子がいれば、神様などの答えも発表する子たちもいました。

「助けられてる感じがする」

「たぶん守ってもらってるから」

とのことでした。

色んな恩を知り、恩を感じ、恩をいつしか送れるようになることを目指して学習を続けていきます。(渡辺道治)

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](https://www.google.com)